令和８年度授業改善推進プラン教科名　　国語

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・文章読解力の向上	○説明的文章の読解・文学的文章の読解において、読解するポイントを押さえる。個人で考えた後、グループで話し合う活動を入れることで、理解を深められるようにする。それぞれの文章を通して「身に付けてほしい力」を明らかにする。
	・作文指導	○マッピングなどから作文を書く手順を身に付けさせる。また教科書の単元を通して書く力を日々伸ばす。生徒が書いた振り返りや文章を読み、誤字を直したり正しい日本語に直したりする。
	・基礎漢字を徹底して習得。また授業の漢字の読み書きを徹底する。	○基礎漢字を正確に書けるよう指導し、徹底して覚えさせる。授業の２回につき１回漢字テストを行い、学習を持続させる。
	・「話す」「聞く」力の指導（言語活動の充実）	○スピーチや朗読を行い、工夫してきちんと相手に伝えられる力をつける。加えて、話し合いの場面を取り入れた授業を行う。また、聞き取りテストを活用し聞かせることで「聞く」力をつけさせる。
２年	・文章読解力の向上	○説明的文章の読解・文学的文章の読解において、読解するポイントを押さえる。個人で考えた後、グループで話し合う活動を入れることで、理解を深められるようにする。
	・作文指導（課題作文）	○マッピングなどから作文を書く手順を身に付けさせる。また教科書の単元を通して書く力を日々伸ばす。
	・基礎漢字を徹底して習得。また授業の漢字の読み書きを徹底する。	○漢字を正確に書けるよう指導し、徹底して覚えさせる。→隔週で漢字テストを行う。また、辞書をこまめに引くこと、推敲することを習慣づける。
	・「話す」「聞く」力の指導（言語活動の充実）	○スピーチや朗読を行い、工夫してきちんと相手に伝えられる力をつける。加えて、話し合いの場面を取り入れた授業を行う。また、聞き取りテストを活用し聞かせることで「聞く」力をつけさせる。
３年	・説明的文章読解力の向上	○接続詞や、前後の段落の関係に着目して、文の要旨をとらえる能力を伸長していく。
	・作文指導（課題作文）	○課題に対応した適切な形で、作文の構成を考えられる力を伸ばす。
	・基礎漢字を徹底して習得。また授業の漢字の読み書きを徹底する。	○基礎漢字を正確に書けるよう指導し、徹底して覚えさせる→隔週で漢字テストを行う。また、辞書をこまめに引くこと、推敲することを習慣付ける。
	・「話す」「聞く」力の指導（言語活動の充実	○「言語活動」の力をつけさせるべく、スピーチや討論等の授業を進める。加えて、話し合いの場面を取り入れた授業を行う。また、聞き取りテスト等を行い、「聞く」力を付けさせる。

○はすぐに取り組むこと

令和８年度授業改善推進プラン

教科名　数学

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・基礎学力（特に計算力）の定着・向上 ・授業に主体的・積極的に取り組む姿勢の育成 ・定期考査の結果分析から	○習熟度別少人数クラスを『基礎』『発展』の２コースとし、コースに応じた授業を展開する。特に基礎コースでは本時の授業で使う既習事項を復習し関連付けながら、本時の内容に入っている。 ○前時の授業内容の小テストを、本時の授業開始５分で行うことで、習熟度を自覚して自らの学習を調整するように促していく。 ○タブレットのミライシードを活用して、毎週課題を行うことで学習習慣の定着、基本的な知識技能の定着を図っている。 ○タブレットのデジタルコンテンツ等を活用することで、視覚的にも理解しやすい授業の実現を図る。 ○教え合いする場面をつくり、答えだけでなく、どのように解いたのか、どのように考えてその結論に至ったのか、過程も含めて話し合わせることで、生徒同士で考え、主体的に学習に取り組む環境を整える。 ○定期考査の結果分析から、既習事項を組み合わせた問題や初見の問題などの正答率が低い。ワークを用いて段階的に思考・判断・表現力の向上を図っていく。
２年	・基礎学力（特に計算力）の定着・向上 ・授業に主体的・積極的に取り組む姿勢の育成 ・学力調査、定期考査の結果分析から（『思考・判断・表現』の観点の問題）	○習熟度別少人数クラスを『基礎』『標準』『発展』の３コースとし、コースに応じた授業を展開する。基礎コースではより丁寧な説明を行うとともに、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着を図る。標準コースでは、話し合い活動等で主体的に自分の考えを他者に伝える姿勢を養うとともに深い学びを実践していく。発展コースでは、既習事項を応用した問題の解き方について他者との話し合いでより良い解放を見出す活動を行う。 ○単元テストや定期考査を用いて、全体の到達度を確認する。学び直しの機会を設けながら授業を進める。 ○授業で教え合いや学び合いを行い、主体的に学ぶことのできる環境を作る。 ○計算問題を確実に解く力が弱い。定期的に計算問題に取り組ませ、復習する機会を作る。 ○既習事項を活用して考える力にも課題がある。基礎コースでは基礎的な問題を中心に計算力を高める課題を、標準コースでは基礎内容を応用した問題を中心に活用力を高める問題を、発展コースではいくつかの既習事項を複合して活用できる課題を設定していく。

３年	・基礎学力の向上（主に計算分野） ・授業に主体的・積極的に取り組む姿勢の育成 ・学力調査、定期考査の結果分析から（『思考・判断・表現』の観点の問題）	○習熟度別少人数クラスを『基礎』『標準・発展』の２コースとし、コースに応じた授業を展開する。基礎コースではより丁寧な説明を行うとともに、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着を図る。標準・発展コースでは、話し合い活動等で主体的に自分の考えを他者に伝える姿勢を養うとともに、深い学びを実践していく。 ○単元テストや定期考査を用いて、全体の到達度を確認する。 ○授業で教え合いや学び合いを行い、主体的に学ぶことのできる環境を作る。 ○計算問題を確実に解く力が弱い。定期的に計算問題に取り組ませ、復習する機会を作る。 ○既習事項を活用して考える力にも課題がある。基礎コースでは基礎的な問題を中心に計算力を高める課題を、発展コースでは既習事項を活用できる課題を設定していく。

<u>○はすぐに取り組むこと</u>

令和８年度授業改善推進プラン教科名 英語科

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・「話すこと」に関しては、意欲的に会話をすることができているが、正確に話すことが課題である。 ・綴りが正確ではない生徒が多い。 ・「書くこと」に関しては、書こうとする意欲はあるが、正確性に課題がある。	○授業内での言語活動を充実させて、既習の語彙・文法事項を使う活動を計画的に行うことで、定着を図る。 ○ペアワーク・グループワークから生徒同士で学び合える学習環境を作る。 ○表現活動において、今までに学習した知識を活用する機会を増やし、繰り返し行うことで定着を図る。 ・パフォーマンステストを定期的に行い、生徒が抵抗なく発表や対話、書く活動ができるように工夫する。
２年	・「読むこと」に関しては、基本的な語句が定着していないため、まとまった量の文章が読めない生徒が見られる。 ・表現活動に関しては、意欲はあるが、基本的な語句や文法が身についていないため、うまく表現できない生徒が多い。	・ペアワーク・グループワークで生徒同士での学び合いを通して、基礎的な読む力、表現力を身に付けさせる。 ○各授業で、平易な英文で自己表現ができる英作文問題に取り組ませる機会を作り、添削をしていくことで、正確に書く力を高めていきたい。 ○１年次に学習した単語や英文を復習する時間を設定し、繰り返すことで、基本的な語句や文法を身に付けさせる。
３年	・「聞くこと」に関しては、要点を押さえて聞くことができる生徒が多いものの、自分の立場を踏まえ判断することが難しい生徒も多い。 ・「読むこと」「書くこと」に関しては、必要な情報を整理し、要点を捉えることが難しかったり、まとまった量の文章を書いたりすることが難しい生徒が多い。 ・「話すこと」に関しては、意欲的に活動に取り組むものの、即興的に話すことが難しい生徒が多い。	・高校入試も視野に入れ、読む活動と書く活動、聞く活動を連動させて、トピックを決めて話したり書いたりさせる。 ○授業内で、授業プリントなどを活用しながら、学習した事項を用いて書く機会を多く設ける。その際、１文でテーマを絞って書かせて自信につなげていく。 ○授業内で、過去に学習した基本的な単語や文法をふりかえる時間を確保し、すべての活動の基本となる単語力を養う。 ○即興的に話す時間を増やし、考える力経験を積み重ねて、対話の力を高めていく。

＊すぐに取り組めることの前に○をつける

令和８年度授業改善推進プラン　教科名　社　会

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・既習事項の定着に大きな個人差がある。 ・授業規律について指導が必要な場面がある。 ・資料・グラフの読み取りなど、数字の捉え方や計算に苦手意識がある。	○毎時間「まとめ」を行い、「本時の目標」に対する理解を深める。さら学習者用端末を活用した振り返りを習慣化する。単元末には「振り返りシート」を提出させ、教員がフィードバックを行う。 ○授業開始時に「本時の目標」と「今日の流れ」を提示する。あわせて、発問は抽象的な表現を避け、発問の意図が明確になるよう具体的に行う。さらに、机間指導を繰り返し行い、つまずいている生徒を適切に支援する。 ○資料やグラフの読み取りについては、生徒のイメージしやすい内容と置き換える、映像資料など視聴覚教材を用いるなどして理解につなげる。 ・補習授業や復習課題を課し、既習単元の定着を図る。
２年	・持ち物、課題や提出物の管理を苦手としている生徒がいる。 ・学習への意欲について指導が必要な場面がある。 ・資料・グラフの読み取りなど、数字の捉え方や計算に苦手意識がある。	○班活動などの協働学習を取り入れ、生徒一人ひとりに役割を持たせることで、主体的に学習に取り組める授業づくりを行う。また、該当する生徒には積極的に声をかけるなど、個に応じた支援を行い、授業中の集中を維持できるようにする。 ○アクティブラーニングを取り入れ、生徒が対話をしながら探究活動を行うようにする。また、グループについて段階を踏んで学習意欲、規律の両面の視点で構成を工夫する。資料やグラフを用いて自分の言葉でわかりやすく発表する活動を取り入れ、言語能力の向上を図る。 ○資料やグラフの読み取りについては、生徒のイメージしやすい内容と置き換える、映像資料など視聴覚教材を用いるなどして理解につなげる。 ・補習授業や復習課題を課し、既習単元の定着を図る。
３年	・１,２年で学習した内容の定着に差がある。既存の知識と新しく学習する内容との関連や比較ができるように復習が必要である。 ・探究活動におけるテーマ設定において、学習を深めていくための思考が十分でない。 ・学習への意識が高まっているが、話し合い活動において誰とでも深めようとする意欲に課題がある。	○まとめ問題集を活用して、１,２年の学習範囲を計画的に復習させながら、理解が不十分な面を補う指導を行う。 ○時事的な内容と学習の関連を図りながら、社会の課題や追究して解決が必要な事柄について考えをもつ授業づくりを行う。 ・グループづくりの工夫を行い、協働的な場面の中で、誰とでも目的に向かって協力する姿勢や態度を養う。 ・ICT 機器等を活用する中で、発表等を通じた演習の場を日常とし、多面的多角的な思考を深めさせる。

○はすぐに取り組むこと

令和８年度授業改善推進プラン　教科名 理　科

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・基礎・基本が身についていない生徒がみられる。 ・観察実験した結果をもとに、考える力やまとめるが不足している。 ・言語活動の充実。	○基礎・基本を重点に置き、学習内容が理解できるようにする。 ○理科プリントをきちんと書かせる指導をおこなう。 ○授業内で１問１答の演習を行い、知識の定着を行わせる。 ○補習等で小学校段階の計算を復習させる。 ○実験・観察を通して、器具の正しい使い方や実験・観察の結果を、相手に正しく伝えられる練習を行わせる。 ○観察・実験を中心に、ICT を活用し、授業における「見える化」を行い、理解を深め、興味・関心を高めさせる。 ○実験を行い、レポートを書かせることで、考察する力を身につける。 ○実験で得た、記録をもとに ICT でグラフをつくらせ視覚化することで考える力やまとめる力を高めさせる。 ○自分の考えを文章にまとめ、発表するなどの活動を通して、言語活動を行う。
２年	・基礎・基本が身についていない生徒がみられる。 ・観察実験した結果をもとに、考える力やまとめる力が不足している。 ・言語活動の充実。	○基礎知識の上に培われるものと考え、自然事象と日常生活の関連をわかりやすく展開し、興味・関心をもたせる授業づくりを行う ○計画的に家庭学習に取り組ませるように課題を出す。 ○教え合い学習で、勉強が苦手な生徒の「わかった」というきっかけを作る。 ○観察実験を中心に、ICT を活用し、興味・関心を高める授業づくりを実践する。 ○ワークシートなどを利用して観察実験を行い、結果から考察をさせ、表現力や思考力を高められるようにする。 ○班での教え合い学習を行わせ、自分の考えを伝える力・整理する力を高められるようにする。
３年	・観察実験した結果をもとに、考える力やまとめる力が不足している。 ・言語活動の充実。 ・全国学力調査・定期考査・復習確認テストの結果から、原子・分子をモデルで考える習慣が身についている。 ・学力を身につけ、高校受験に対応する力をきちんと身につけさせる。	○観察、実験を中心に、ICT の活用を行い、興味関心を高める授業作りを実践する。 ○観察、実験を通し、結論へのプロセスを考えさせる授業づくりを進める。 ○ワークシート・レポートなどを利用して観察実験を行い、結果から思考力や表現力を段階的に高められるようにする。 ○ペア・グループ活動での教え合いで、自分の考えを伝える力・整理する力を高められるようにする。 ○３年当初から定期考査で化学反応式を出題し、化学式カルタ等やモデル等で視覚的に考える習慣を継続しておこない、イオンの化学式に入っても抵抗感なく、これまでの学習の延長として取り組む工夫を行う。 ○３年間のまとめの「総整理問題集」を計画的に取り組ませる。

令和８年度授業改善推進プラン教科名　音楽

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・音楽を愛する心情を育てる ・主体的、対話的で深い学びと言語活動の充実 ・学習意欲の向上と、学習内容の確実な習得のための、見通し ・振り返り学習の充実	○音楽の美しさを感じられる教材選びの工夫を行う。 ○わかりやすい具体的な目標の設定と授業展開の工夫を行う。 ○ワークシートの形式の工夫と記述内容を共有する。 ○既習事項の復習、意見の共有、振り返り時間を設定する。
２年	・音楽を愛する心情を伸ばす ・主体的、対話的で深い学びと言語活動の充実 ・学習意欲の向上と、学習内容の確実な習得のための、見通し ・振り返り学習の充実	○音楽表現の楽しさや美しさを感じられる教材選びの工夫を行う。 ○わかりやすい具体的な目標の設定と楽しめる授業展開の工夫を行う。 ○ワークシートの形式の工夫と記述内容を共有する。 ○既習事項の復習、意見の共有、振り返り時間を設定する。
３年	・音楽を愛する心情を高める ・主体的、対話的で深い学びと言語活動の充実 ・学習意欲の向上と、学習内容の確実な習得のための、見通し ・振り返り学習の充実	○音楽表現の豊かさや美しさを感じられる教材選びを工夫する。 ○わかりやすい具体的な目標の設定と達成感を味わえる授業展開を工夫する。 ○ワークシートの形式の工夫と記述内容を共有する。 ○既習事項の復習、意見の共有、振り返り時間を設定する。

○はすぐ取り組むこと

令和８年度授業改善推進プラン　教科名　美　術

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・3 年間の見通しをもたせる ・鉛筆や絵の具などの基礎的技術が身に付いていない。 ・一斉授業で制作過程の理解が難しい生徒がいる。 ・言語活動の充実をはかる。	○3 年間の指導計画を評価の観点（評価規準）を中心に説明する。 ○個別の巡回指導をする。 ○制作において、用具の名前や使用法について資料を用いたり、実演を見せたりするなど、視覚的な情報を提供しながら説明をする。 ○ユニバーサルデザインを取り入れ黒板の掲示を工夫する。 ○制作に取り組む前の教材の管理保管の方法を工夫する。 ○制作過程でアイデアを表現させ、完成のイメージをもちながらプロセスを楽しむ場面を設定する。 ○制作過程を理解していない生徒や、イメージが湧かない生徒には、個別に対応し、適切な声かけを行う。 ○制作手順を示し、安全・協力・能率を意識させる。使用方法を別途張り出し、注意を促す。 ○制作後、各自、作品の説明や感想を書いたり、グループ内で鑑賞会を行ったりし、お互いの作品の良いところについて話し合う。
２年	・興味、関心を高める。 ・一斉授業で制作過程の理解や正しい道具の使用法の理解が難しい生徒がいる。 ・言語活動の充実をはかる。	○一人ひとりの個性を大切にし、表現の楽しさを感じさせる。 ○制作過程でアイデアを表現させ、完成のイメージをもちながらプロセスを楽しむ場面を設定する。 ○制作過程を理解していない生徒や、イメージが湧かない生徒には、個別に対応し、適切な声かけを行う。 ○個別の巡回指導をする。 ○制作手順を示し、安全・協力・能率を意識させる。 ○制作後、各自、作品の説明や感想を書いたり、グループ内で鑑賞会を行ったりし、お互いの作品の良いところについて話し合う。 ○美術史上の作品を鑑賞し、意見を出し合う。
３年	・学習を生活に生かす。 ・一斉授業で制作過程の理解が難しい生徒がいる。 ・言語活動の充実をはかる。	○生活の中での、美術学習の生かし方を工夫させる。 ○制作過程でアイデアを表現させ、完成のイメージをもちながらプロセスを楽しむ場面を設定する。 ○制作過程を理解していない生徒や、イメージが湧かない生徒には、個別に対応し、適切な声かけを行う。 ○個別の巡回指導や補習をする。 ○制作手順を示し、安全・協力・能率を意識させる。 ○制作後、各自、作品の説明や感想を書いたり、グループ内で鑑賞会を行ったりし、お互いの作品の良いところについて話し合う。 ○美術史上の作品を鑑賞し、意見を出し合う。 ○作品紹介文を書く。○技法の確認文を書く。

○すぐに取り組むこと

令和８年度授業改善推進プラン　教科名 保健体育

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	○男女共修の授業を通じて性別の有無にかかわらず運動やスポーツの楽しみ方を共有し共生の心を育てる。
	・運動を行う際の基礎体力の向上。	○自己の運動能力を体力テスト等の結果を通して把握させ、課題を見つけ授業に意識的に役立てる。 ○運動時間の確保。
	・安全に運動する習慣を身に付ける。	○授業ルール・授業規律の徹底、集団行動の習得。
	・ＩＣＴの活用	○実技の授業で，自分の動きを撮影し，課題発見や改善に生かしたり実技テストを動画で提出したりする。 ○長距離走でタイムをデータ管理することにより目標達成のためのペース配分をつかみやすくする。
	・話し合いや教え合い活動の充実	○運動が得意な生徒が自分の技能や知識を仲間に還元できるよう，教え合いやそれぞれの課題を解決できるよう話し合いを実施させる。
２年	・運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	○男女共修の授業を通じて性別の有無にかかわらず運動やスポーツの楽しみ方を共有し共生の心を育てる。
	・運動を行う際の基礎体力の向上。	○自己の運動能力を体力テスト等の結果を通して把握させ、課題を見つけ授業に意識的に役立てる。 ○運動時間の確保
	・安全に運動する習慣を身に付ける。	○授業ルール・授業規律の徹底、集団行動の習得。
	・ＩＣＴの活用	○実技の授業で、自分の動きを撮影し、課題発見や改善に生かしたり実技テストを動画で提出したりする。 ○振り返り活動を行い、記録が残るようにする。 ○長距離走でタイムをデータ管理することにより目標達成のためのペース配分をつかみやすくする。
	・話し合いや教え合い活動の充実	○運動が得意な生徒が自分の技能や知識を仲間に還元できるよう、教え合いやそれぞれの課題を解決できるよう話し合いを実施させる。
３年	・運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	○男女共修の授業を通じて性別の有無にかかわらず運動やスポーツの楽しみ方を共有し共生の心を育てる。
	・運動を行う際の基礎体力の向上。	○自己の運動能力を体力テスト等の結果を通して把握させ、課題を見つけ授業に意識的に役立てる。 ○運動時間の確保
	・安全に運動する習慣を身に付ける。	○授業ルール・授業規律の徹底、集団行動の習得。
	・ＩＣＴの活用	○実技の授業で、自分やチームの動きを撮影し、課題発見や改善に生かしたり実技テストを動画で提出したりする。 ○振り返り活動を行い、記録が残るようにする。 ○長距離走でタイムをデータ管理することにより目標達成のためのペース配分をつかみやすくする。 ○保健で、調べ、まとめる学習をする。
	・話し合いや教え合い活動の充実	○運動が得意な生徒が自分の技能や知識を仲間に還元できるよう、教え合いやそれぞれの課題を解決できるよう話し合いを実施させる。

令和８年度授業改善推進プラン教科名　技術

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・カリキュラムの進行管理 ・手作業技能の習得 ・評価と活用	○班員相互の協働・協力によって進度を合わせるようにする。 ・カリキュラムの配置を工夫し、工作実習を早く完了させる。その後、振り返りにより理論を深める。 ○各工具の最適な使用の仕方を理解させて、効率よく進められるようにする。それにより、技能向上をねらう。 ・前回の振り返りを確認し、さらに本時の目標を理解し作業等に取り組ませて行く。 ・材料と加工の内容において、製作した製品について家庭で使用すること、関する評価と活用に重点を置く。
２年	・電気教材の選定 ・評価と活用	○教材の値上がりにより、価格が安く学習材として適切な教材の選定を行う。 ○エネルギー変換に関する評価と活用に重点をどのように置く。 ・前回の振り返りを確認し、さらに本時の目標を理解し作業等取り組ませて行く。
３年	・明確な評価基準の提示 ・栽培計画の工夫 ・計測、制御の支援の工夫 ・評価と活用	○生徒に分かりやすい配点に換算し、家庭科との合計を観点別評価それぞれについて５０点＋５０点の１００点満点とした。 ○前回の振り返りを確認し、さらに本時の目標を理解し作業等に取り組ませて行く。 ○自然相手であり、隔週であるため同一週に種まきができるよう時間割変更を行う。 ○計測、制御で使用するプログラムの考え方や作成方法が理解しやすいワークシートの工夫を行う。 ・プログラムによる計測・制御に関する評価と活用に重点をどのように置く。

○すぐに取り組むこと

令和８年度授業改善推進プラン　教科名 家庭科

学年	指導上の課題	具体的な授業改善策（補充・発展等）
１年	・新たな気持ちで中学校家庭学習に取り組んでいるが、基礎的なことが定着していない。興味はかなり示しているので興味を持つ分野から発展させていく。	○基礎的なことが定着していないことや経験不足は認められるが、「刺し子」の作業を通して、上手、下手でなく、集中力や頑張る力が大切であることを指導して、作り上げる喜びを味わわせたい。 ○授業の導入を特に大切にし、導入の工夫や生徒の関心ある内容の授業を心がけ、ワークブックを活用し、生徒が答えを考える機会を多くし、意欲的に取り組める工夫をしていく。 ○授業の最後に縫い針・待ち針がそろっているかを確認し、紛失がないようにする。 ○授業の終わりに次回の持ち物を周知し、始まる前に忘れ物申告を行い、指導する。 ○貸し出し用の用具も準備して、忘れ物による作業の遅れがないように指導していく。
２年	・集中できない生徒が多いので、身近な課題を取り上げ、興味、発展に繋げていきたい。 ・基礎的なことや、道具の使い方についての経験不足が多い。 ・よりよい物を工夫して作っていこうという意欲を感じられる生徒も多いので、作業では工夫、アイデアなどの力をつけさせる。 ・忘れ物が多く、授業に対する準備が不足している。また、終了時にも針等を紛失してそのままにすることがあるので、注意させたい。	○その日の課題をわかりやすく知らせ、実際の生活に即した教材を準備し、学習方法を工夫して、新たな知識や技術を身につけさせる。 ○基礎縫いを行う教材を用意しているので、ミシン縫いの技術を振り返り、身に付けられるようにしたい。 ○コンパクトバッグ作りでは、作業が不得意な生徒や、作業進行が遅い生徒にはこまめに声をかけ、見本を見せ、指導する。 ○コンパクトバッグ作りが終わった後に、個々のアイデアを生かせるフェルトのアップリケを作成し、バッグに飾り付けするか、ほかのものに飾り付けできるように指導し、デザインや色合わせを工夫し、オリジナルなものを完成させる喜びを味わわせる。 ○授業の最後に縫い針・待ち針がそろっているかを確認し、紛失がないようにする。 ○貸し出し用の用具を用意し、忘れ物による作業の遅れがないようにする。
３年	・隔週授業の上、行事でカットなど、極端に少ない授業数でいかに内容の濃い授業にするかが課題である。	○毎時間の授業を集中して学習することがいかに大切かをしっかり説明して、理解させる。 ○調理実習では、安全に注意しながら基礎的な調理技術を習得し、調理から片付けまでを班で協力して行う大切さを体感することができるように指導する。

○はすぐに取り組むこと